認知症予防に新手法

アロマとハンドマッサージ

組み合わせ「相乗効果」

アロマ（芳香）とハンドマッサージの組み合わせで認知症の進行を防ごうと、日本介護美容セラピスト協会（大阪市福島区）が啓発活動をスタートさせた。自律神経への働き掛けなどで効果が見込まれるという。高齢者の５人に１人が認知症になるとされる中、介護する側もされる側も快適な環境を実現していくのが狙いだ。（加星宙麿）

日本介護美容セラピスト協会 啓発活動を開始

実践用に開発された「午前中」向けと「就寝前」用のアロマオイル（手前）を活用して開いている講座＝大阪市福島区のナリス化粧品大阪ビル

アロマオイルは、午前中にローズマリーとレモン、就寝時にラベンダーとオレンジを一定の比率で混ぜて使う。時間帯に合った香りで自律神経に働き掛け、生活リズムの改善を図るのが目的。認知症の高齢者を対象に成果を上げた研究機関の手法を踏まえた。

そこに組み合わせるのは、同協会が高齢者らに実践してきたハンドマッサージ。これまでの取り組みで、肌に触れる行為が心を穏やかにするホルモンの分泌を促すことが分かってきたという。

「香り」と「触れる」の相乗効果について谷都美子代表理事は「施術を受ける方の笑顔が早く出るケースが見られた」と指摘する。

厚生労働省の推計によると、2025年には65歳以上の高齢者の認知症の割合は5人に1人。抑止に向けて施術の手法の啓発に着手した。アロマオイルは同協会が監修してナリス化粧品が開発。1月から実践向けの講座を始めた。

13日には大阪市福島区のナリス化粧品大阪ビルで実施。ハンドマッサージの手法などについて学んだ同協会認定の有資格者約60人が受講した。

谷代表理事がアロマオイルの使用方法について解説。ハンドマッサージの手本を示し、参加者は2人一組で施術に挑んだ。

月1回高齢者施設で活動している前佳子さん(36)＝神戸市西区＝は「香りによって自然な形で朝晩の認識につながるのは魅力。身近な人や施設の方に紹介できれば」と意欲を示していた。

谷代表理事は「認知症の発症や進行を予防できれば、高齢者の暮らしの活性化に役立つ。介護者の負担軽減や社会福祉費の抑制にもつながる」と強調。今後、全国で講座を開いていく方針だ。

犬猫動画をPRする企業担当者＝21日午後、大阪市北区

説明。各社は来場した在阪メディアへの企業PRに懸命だった。（深田巧）

したと訴えた問題で、市教育委員会は21日、第三者委員会が作成した調査報告書を公表した。男児の保護者側は

保護者は「調査はずさんで的の外れた検討に終始した」とのコメントを発表。これに対し吉村洋文市長は「問

前に提示され、男児が2年時に羽交い締めにされ、たたかれるなどのいじめを受けたと認定。PTSDの原因に

保護者の代理人弁護士は「男児に発達上の問題がある可能性をにおわせ、それがいじめを誘発したような印象

---

34 空

平成28年度 大阪市体育協会 スポーツ功労表彰式